

2017年度 経営学研究科(経営学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

科目名(副題)	開講年次(セメ)	単位	担当者名
会計学研究B	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	梅田 守彦
授業概要			
会計は外部報告ばかりではなく、内部の経営管理に資することも期待されている。この授業では、計画設定や統制目的に対する会計情報の役立ちについて、いくつかの技法に焦点を当てながら考えていくことにしたい。			
授業目標(到達目標)			
管理会計の重要な技法、たとえば個別原価計算と総合原価計算、CVP分析、標準原価計算と再分析、活動基準原価計算、予算編成、分権化のもとでの業績評価、などを学習していく。各種技法の意義と限界についての考察をととして、経営管理に関する諸問題への理解を深める。			
授業方法			
基本文献の輪読を中心に進めていく			
成績評価方法・基準			
予習復習の程度、授業中の発言等により評価する			
教科書・教材・参考文献 等			
新版『管理会計のエッセンス』ワシントン大学フォスタービジネススクール管理会計研究会(訳) 同文館出版			
質問への対応(オフィスアワー等)			
授業時間中ならびにオフィスアワー(木曜2限 梅田研究室)等に対応する			
授業計画			
	項目	内容	
1	原価計算 I	個別原価計算について	
2	原価計算 II	総合原価計算について	
3	原価計算 III	直接原価計算と損益分岐分析について	
4	原価計算 IV	活動基準原価計算について	
5	設備投資の経済性計算 I	割引計算について I	
6	設備投資の経済性計算 II	割引計算について II	
7	設備投資の経済性計算 III	正味現在価値法と内部利益率法について	
8	設備投資の経済性計算 IV	税金の影響について	
9	予算 I	長期利益計画と短期利益計画について	
10	予算 II	予算編成と予算管理について	
11	予算 III	脱予算モデルについて	
12	分権的組織の管理 I	分権的組織のありかたについて	
13	分権的組織の管理 II	事業部の業績評価について	
14	分権的組織の管理 III	新しい業績評価技法について	
15	まとめ	管理会計の諸技法の意義と限界についての再確認	
履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習)			
会計はとくに積み重ねが重要になってきます。面倒でもきちんと予習復習を進めてください。			